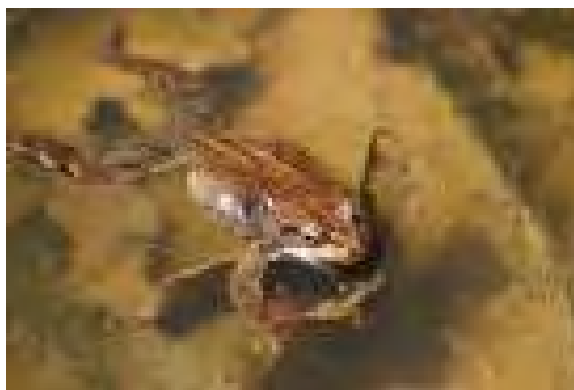
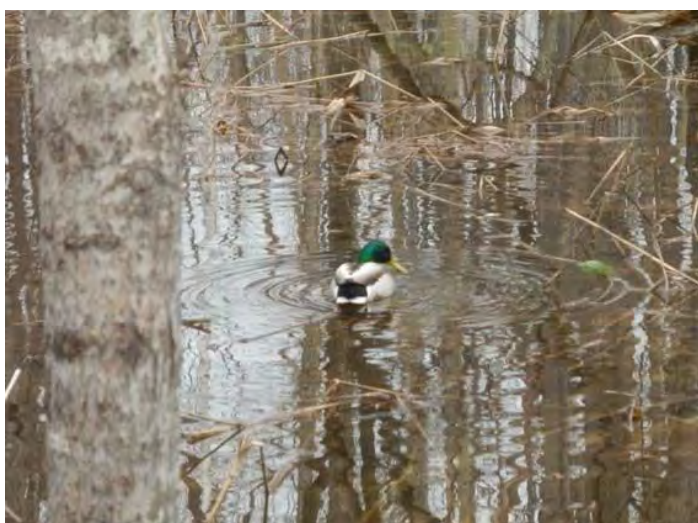


エゾアカガエル

今年(2013年)は4月26日にもなって、澄川森林では門扉から基地のテントまでやっと雪を踏まずに行けるようになりました。雪解水でかかってない水位の湿地でエゾアカガエルの声が出ていました。例年のようにカエルの卵を期待してのマガモが静かに探索していましたが産卵はまだのようでした。



地球上には約 4,800 種類のカエルが棲むというのに、北海道に棲むカエルの種類は少なく、エゾアカの他には小型で体色がグリーンのアマガエルのたったの 2 種類しかいません。食用として導入された大型のウシガエルの道路上での轢死体を見たことがありますし、本州ではポピュラーなトノサマガエル、ヒキガエル、ツチガエルも持込まれた記録があるようですが、見たことはありません。ちなみに日本に棲むカエルの種類は 39 種類が確認されているといわれています。あまり多くはないのです。



澄川森林内の湿地は夏の盛りになると干上がりますが、ここ 10 年で 2012 年は少し水面が残りました。しかし、エゾアカガエルの繁殖には十分な期間、水量が確保されているので、エゾアカガエルの声は毎年聞かれるのです。しかし、同じ時期にエゾサンショウウオもこの湿地に産卵し、その幼生はオタマジャクシそっくりですが、エゾアカガエルのオタマジャクシの天敵なのです。天敵は他に確認

したものだけでもマガモ、アオサギ、ヤマセミ、トビ、キツネ、タヌキ、アオダイショウ、シマヘビ、ジムグリ、アライグマなど多いのです。そんな環境でも絶滅することもなく、毎年フニャ、フニャと声で春を告げてくれる嬉しい存在であります。

澄川森林での冬眠は尾根筋のようで、数日前に踏みつけそうになりました。まだ周りは雪だらけで、また、落ち葉の中に潜り込みました。踏みつけられて眠りから叩き起こされたかたちだったようでした。

森の雪が消えると、植樹のシーズンとなり、作業内容も場所も変わります。植樹適期は短いので、日程がつまってきます。同時に山菜の季節でもあり、楽しみも増えてきます。